

読書バリアフリー研究会 アンケート回答 (2014_05_24 東京会場)
 ~みんなに読む楽しさを伝えよう~

参加者 33、アンケート回収 31

1. この講座をどちらでお知りになりましたか。

新聞・雑誌	0	
ちらし・DM	22	
友人・知人の紹介	3	
ウェブサイト・ブログ	0	
メーリングリスト	5	出版 UD 研 1
その他	1	
合計	31	

2. 今回の講座の満足度をお聞かせ下さい。

満足	やや満足	やや不満	不満
21	9	0	1

その理由をお聞かせ下さい。

満足の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ フォントサイズや色を変えるなど「技術的な」サポートの方法がわかりました。それ以上に、難しい漢字の読みでは、「意味」の理解をどのように進めるかがわかりました。 ・ 基礎、入門から少し発展したお話まで色々と聞けました。昨年も出席し、野口先生のお話は 2 度目でしたが、新しい情報なども加わっていて、今回もとてもためになりました。河野先生の講義は、実は今一番関心のあることだったので、一言も聞き漏らすまいと思って拝聴していました。発達障害のある子ども達への支援は、図書館でもまだまだなので、今日教えていただいたことを仕事に活かしていこうと思います。 ・ マルチメディア DAISY 関連の話聞きに来ましたが、河野先生の読み書き障害やアプリ活用方法の講義は知らないことが多く、ためになりました。 ・ 公共図書館に勤めています。色々な形の読書があることを知らせていくことも大きな使命と考えています。基本と新しい技術や制度等を学ぶ場として、これからも参加させていただきたいと考えます。 ・ 初めて参加しましたが、講座の内容も初めて聞くものが多く、障害者サービスの仕事に生かせればと思います。 ・ 図書館で学校図書館支援をしています。先生から特別支援学級のために電子図書を入れて欲しいと言われましたが、費用やセキュリティーなどでなかなか難しい状況です。恥ずかしながらマルチメディア DAISY を知らなかったもので、今後「こういう物もありますよ」と提案できると思いました。ディスレクシアというものがある、ということは知っていましたが、細かいことやどんな支援が必要かが分らなかったもので、とても良かったです。 ・ 学校図書館を作っています。成松さんの 3 つのバリアの話は、とてもわかりやすかったです。障害のある子ども達にとっての図書館、読書をどう設定すれば利用して貰えるのだろうか？と考えています。その答えのヒントとなりました。このことが授業に役立ち、子ども達の余暇の 1 つになればと思っています。時間はかかりますが、今回のヒントを元にやっていきます。 ・ 電子図書の展開が楽しみです。絵本形式の文字がないバージョンって集中できていいですね。 ・ 障害のある方の読書のお手伝いをしています。特に視覚に障害のある方にサービスを提供してきましたが、法律は変わりますし、機械・ソフトが新しくなって最新情報についていきにくいことがありました。その最新版に触れることができ、知りたい情報を得ることができました。 ・ 幅広く、深く読書バリアフリーについて考えることができた。

- ・臨床の画像を見ることができ、ディスレクシアの子どもたちがどう文字と向きあっているのか…支援のあり方を考えさせられた。ディスレクシアに関して、他の子どもたちと同じレベルになることではない～という正しい理解を周りの人たちに伝えていく活動も大切と思えた。
- ・最近のバリアフリー情報や読者の実態についての新しい知見などなど、今後の出版活動を考えていく上で大きなヒントを頂けて良かったです。今回のセミナーの続編を考えて頂けるとありがたいです。
- ・現状と問題点を明確にして、支援のためには何をすべきか具体的に示して下さいだったので分かり易かった。
- ・今回の研究会は「理論編」とのことでしたが、各講義とも具体的な実践例、データを示して下さいだったので、興味を持って聴けました。読書バリアフリーを様々な立場や方面から考えるきっかけとなりました。
〔本を作る人、提供する人、読む人…など〕
- ・iPadをもっと有効に使えることがわかった。色々な障害について知ることができた。
- ・丁寧な解説をうけて、理解が進んだ。
- ・少し難しかったので全部が私に理解できているかはわかりませんが、このような試みがどんどん世の中に進んでいることは喜ばしいことだと思いました。新しいやり方を考えることは大変な努力だと思いますが、これからも事業を続けていってくださることを望んでいます。
- ・学習障害と聞いて、こういう障害なんだろうなという認識しかなかったが、その種類や症状も様々なのだと理解できた。その支援も人によって違うということも表や映像などでとても分かりやすく知ることができました。
- ・野口先生は、前回より先生自身がバリアについて整理されていた。あらゆる場で全国的に先生の理念を普及させていただきたい。河野先生は先生の著書を読んでいたのでも直接お話を聞くことができ再確認できた。著者直接の講話は更に印象に残った。成松先生は大活字に勤務時から注目していた。独立されてのご活躍は心強い限りで、更に期待をしていきたい。
- ・マルチメディア DAISY について知ることができた。また様々なバリアフリー図書にふれることができた。また具体的な画像や資料を見ることができた。質問にも答えていただき参考になりありがたかったです。
- ・未記入 1

やや満足の理由

- ・公共図書館のこれからのあり方について、もう少し深く話を聞きたかった。
- ・公共図書館から参加。現在、障害者サービスについての問題点が出ており、参加することになった。ボランティア体制の見直しやサービスの向上を検討している。特別支援学級への支援も進めているが、マルチメディア DAISY の利用はしていない。話に出ていたように、セキュリティが年々厳しくなっているので、かなり難しいと感じた。ただ、子ども達にはぜひ試してみたいと感じた。図書館でどう関わっていけるか検討したいです。
- ・マルチメディア DAISY のニーズはあると思いますが、今の所、個々に点在している状況です。パブリックではなく、個々の子どもが自宅に個別に利用することができれば、更に普及すると思うのですが。
- ・読書バリアフリーに対する理解を深めることができました。具体的な取り組みもわかりました。
- ・読書バリアフリーの概要を伺えてよかったです。
- ・ディスレクシアについて、とてもわかりやすく実用的な内容だと思いました。河野先生のお考えがはっきりしていて、ズバリとおっしゃっていたので、表面的な一般論ではなく、メッセージが伝わってくるのを感じました。
- ・職務の参考になり助かりました。特に野口先生は実物を多数お持ちになり、とても参考になりました。
- ・まだ行動していない自分がある為、理解度がおいつかない為と思う。
- ・未記入 1

不満の理由

- ・DAISY 図書だけではなく、「読む」こととは何か、「読む楽しさを味わう」ために私たちができることは何かを考えさせられた。また、アプリやバリアフリー資料の情報を多く得ることができた。

3. その他、お気づきの点がございましたら何でもお聞かせ下さい。

- ・今回はバリアフリー読書という幅広いお話でしたが、「わいわい文庫」はどんな子に、どのように使うことができるのか、という現場の具体的な話がありませんでしたので、初めて DAISY を使う人にはイメージが持ちにくいと思いました。先週の講座内容と合わせて理念と現場の話が一度に聞けると DAISY 図書の全体における位置づけも分りやすくなると感じました。
- ・研究会に参加した方々は、何を求めて来場したのかが明確になると、講義形式だけではなく自由な意見交換会ができ、参加者の持っている悩みも話しやすく、みんなで考えられると思いました。
- ・財団のような団体は、大衆向けの作品より、細かなニーズに応える作品を作る方が、特別なニーズが必要な方々にとって有難いと思います。DAISY が普及するためには、それが当たり前のツールとして存在する必要があります。そのためには出版社が本の出版と同時に DAISY 版も発売するのが一番理想だと思います。それは「読みにくさに対応するためのツール」ではなく「新しい電子絵本」と映るかもしれません。しかし、このツールが当たり前になれば、必要な子どもにとって有難い環境になるので、財団が出版社を道連れにするのが DAISY 普及の確実な道だと感じました。
- ・スマホのアプリも普及している中で、電子絵本としての DAISY は、お母さんたちにもニーズがあると思います。出版社も新しい収入源になると思います。(以上 要約)
- ・色々なタイプの本を回していただきましたが、講演中は話に集中できずに困るので、展示方式のみにして欲しい。回して欲しい人もいないかもしれないが、回ってしまうと「困る人」もいますので。
- ・マルチメディア DAISY とは?という、普及やコンテンツ集めのためにも、VER.BLUE は、著者や出版社への紹介活動に有効だと思いました。今後、同時に紙（出版）と進行していくような、コラボレーションなどもあると思います。
- ・財団がいろいろに工夫されていることを伺い、公共図書館でもしっかり受け止めたいと思いました。例えば VER.BLUE の扱いを、誰でも借りられる形に受け入れる（今は貸し出しできない）等。市中でも図書館協議会で質問が出るなど、確実に普及はしています。
- ・著作権がバリアのように扱われていたのが気になりました。どんな子どもも一緒に使える本を作るためには、そして出版社からもたくさんそのような本を出せるようになるためには、著者だけがボランティアというわけにはいきません。教科書や児童書も多機能の電子化が進んできましたので、そうした物との差がなくなってきたように感じています。電子書籍の可能性をいかしていきたいですね。
- ・アンケートを書きながら、LD の子たちは「こういうこと」がとっても苦手なんだろうなど、ふと思いました。日本の学校は、こういう「感想を書きましょう」「思ったことを書きましょう」という場面がとても多いように思います。文字を読むのが苦手な子たちが、「本を読むことは苦痛だ、楽しくない」と思ってしまわないよう、本に書かれている中身は楽しいことがいっぱいなんだよってことを、少しでも伝えられるように、公共図書館の立場で考えていけたらいいなと思いました。
- ・発達障害を持つ子どもたちは、周りの人たちには気付かれにくく、そのため彼らの生きにくさは理解されにくいと思われれます。一人でも多くの人に、その困難さを知って貰う活動も含め、展開されることを望みます。学校等公的機関との連携も大切ですが、フットワークが軽いので地域活動の草の根活動をしている団体との連携も期待しております。
- ・河野先生のお話が、とても分かりやすく興味深かったです。他の先生のお話もとても勉強になりました。DAISY も実際に触って体験することができたので、とても良かったです。
- ・わいわい文庫、図書館に聞いてみようと思います。バリアフリーの方法は、探せばもっといろいろ普通にあるのかもしれないと思った。
- ・人間の声を入れた DAISY 図書は製作に時間がかかるので、合成音声を使って短時間で図書を作る方法（良質の合成音声の入手など）を調べています。ユーザーが短時間で自分で電子図書にする方式についてもいろいろ知りたい。
- ・是非、今後もこのような活動を続けて下さい！マルチメディア DAISY 図書は、本当に素晴らしいです。タイトル数を増やせば、もっと喜ばれると思います。なかなか利用者に知られていないので、担当職員→図書館職員→学校職員→保護者など、身近な所から普及活動をしていきたいと考えています。

- ・小中学校の特別支援学級担当者にこういった情報が不足していると思います。研究会は大切だと思いました。
- ・都道府県立図書館にアピールしていただけると、市町村図書館にも情報が入りますので、マルチメディア DAISY の広報・啓蒙活動もあわせてお願いいたします。興味のある図書館員は多くいると思います。
- ・度々の研究会参加が必要と感じました。図書館のニーズがまだまだと思うし、地域間格差が大きくなると思う。
- ・視覚障害児（全盲）へのお手伝いをしています。楽しい教材を作りたいと研究しています。
- ・ボランティア向けにマルチメディア DAISY の製作講座があるといいかもしれません。
- ・ケーブルテレビの取材が入ったことは嬉しい。もっとマスメディアの活用を！
- ・またこのような講座がありましたら参加させていただきたいです。
- ・ありがとうございました。2
- ・今後も継続してください。
- ・未記入 9